＝香川大学＝

瀬戸内圏研究センターシンポ

香川大学は3月1日、瀬戸内圏研究センターシンポジウムを開催した。同センターが主体となって推進してきた「海」、「文化・観光・歴史」、「遠隔医療」、「水」の各研究の成果を報告するとともに、この報告に基づいて、様々な立場から意見をもらい、地域・社会において同センターが果たすべき役割について考えることを目的として開催したもの。

事例報告をする多田センター長

最初に、金徳謙経済学部教授による「地域資源の活用と瀬戸内国際芸術祭」、末永慶寛工学部教授による「植生浮体を用いた水質改善と魚類残渣の有効利用による環境改善」、多田邦尚瀬戸内圏研究センター長による「浅海域の低次生物生産過程と栄養塩循環」、原量宏瀬戸内圏研究センター特任教授による「香川県で開発された周産期管理システム、モバイルCTGのグローバル展開への道」の各報告があった後、恩賜財団済生会・香川県済生会の一井眞比古支部長による「離島のあり方から見た瀬戸内圏研究センターへの期待」の提案があった。続いて行われた総合討論では、前出報告に基づき参加者らから出された意見等に対して、様々な立場から興味深い意見が出される、活発な討論が行われた。

香川大瀬戸内圏センターがシンポジウム

香川大学瀬戸内圏研究センターシンポジウムが、去る3月1日に開催された。同センターが主体となり推進してきた〝海〟〝文化・観光・歴史〟〝遠隔医療〟〝水〟の各研究の成果を報告するとともに、この報告に基づいて、さまざまな立場から忌憚ない意見を聞き、地域・社会で同センターが果たすべき役割について考えることを目的として実施したもの。

シンポジウムではじめに、経済学部の金徳謙教授による「地域資源の活用と瀬戸内国際芸術祭」、工学部の末永慶寛教授による「植生浮体を用いた水質改善と魚類残渣の有効利用による環境改善」、多田邦尚瀬戸内圏研究センター長による「浅海域の低次生物生産過程と栄養塩循環」、瀬戸内圏研究センターの原量宏特任教授による「香川県で開発された周産期管理システム、モバイルCT専門職のグローバル展開への道」に関する報告が行われた。

また、社会福祉法人恩賜財団済生会・香川県済生会支部長の一井眞比古氏が「離島のあり方から見た瀬戸内圏研究センターへの期待」について提案した。

続いて行われた総合討論では、報告に基づき参加者らから出された意見などに対して、さまざまな立場から興味深い意見が寄せられるなど、活発な討論が行われた。

最後に一井氏、㈱Ｇｕｎ（グン）地域システム研究所・代表取締役の羽原浩史氏がコメントした。同センターではシンポジウムで寄せられたさまざまな意見を今後の運営に活かす方針だ。

提案する一井氏

コメントする羽原氏

閉会挨拶を行う本城ゼネラルマネージャー

事例報告を行う多田センター長